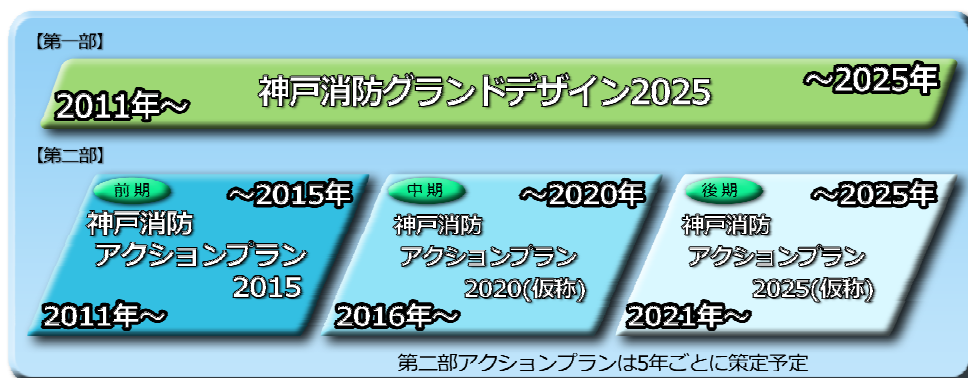


神戸市消防基本計画(要約版)

【位置付け・構成】

『神戸市消防基本計画』は、神戸市基本計画の2025年度を目標年次とする、神戸市基本計画（「神戸づくりの指針」、「神戸2015ビジョン」）と相互に補完・連携を図る部門別計画として位置付けています。安全安心都市こうべの実現のため、15年間の取組みの方向性を示した「神戸消防グランドデザイン2025」と5年間の実行計画である「神戸消防アクションプラン2015」の二部構成となっています。



【第一部 神戸消防グランドデザイン 2025】

「神戸消防グランドデザイン 2025」では、神戸市において、今後考えられる社会潮流と消防に関する主な課題を整理したうえで、まちの将来像の実現のため、協働して取り組むべき施策の方向性を示します。

5つの社会潮流及び課題

- ①人口減少・超高齢化社会の到来
- ②災害の多様化
- ③救急需要の増加と救急の高度化
- ④阪神・淡路大震災から30年後の社会に向けて
- ⑤「港都こうべ」の守り

これらの課題に対応していくため、阪神・淡路大震災を教訓とした「ひと」との繋がりや「きずな」の大切さ、「まち」の安全・安心を基本理念に、防災に対する「仕組みづくり」や「人づくり」、「物づくり」などに取組んでいきます。また、新たに2つの『神戸らしさ』にプラスの視点を加え、「神戸に暮らしたい、働きたい、訪れたい」、といった魅力ある神戸づくりを目指します。

「ひと・まち・きずなで安全安心都市こうべを築きます」の基本理念のもと、安全安心都市こうべの実現のため、3つの「基本方針」、5つの「安全で安心な神戸のまちの将来像」を描くことで、将来に向けた取組みの方向性を明らかにしています。



【神戸消防グランドデザイン 2025】全体図

基本理念

ひと・まち・きずなで安全安心都市こうべを築きます

基本方針

- 基本方針1 すべての「ひと」が日頃から防災について考え、取組みます
- 基本方針2 安心して暮らし集える、安全な「まち」こうべをつくります
- 基本方針3 人としての「きずな」を大切に、みんながともに助けあいます

“神戸らしさ”にプラスの視点

PLUS “こども”の視点

将来の防災を担う人材として、子ども達を守り育て、次世代に繋がります

PLUS “おもてなし”の視点

すべての人へ“防災”を通じた“おもてなし”に繋がります

2025年 安全で安心な神戸のまちの将来像

将来像1

みんなで安全・安心に取り組むまち

- (1)いざという時、地域みんなで助けあえるよう、日頃から、ゆるやかな連携が進んでいる
- (2)日常的な事故防止や住宅防火対策のため、家庭での安全・安心に取り組んでいる
- (3)災害の防止やリスクの軽減のため、事業所や危険物施設などの自主防災体制が充実している

将来像2

防災への心を育むまち

- (4)震災や水害など、災害文化を伝えるため、世代を超えた防災教育が充実している
- (5)普段から市民の防災意識が高まるよう、必要な防災情報が発信されている
- (6)防災のプロとして、消防職員・消防団員への研修・訓練体制が充実し、市民に開かれた消防署・消防団がある

将来像3

命を大切に考え取り組むまち

- (7)応急手当の普及が進み、命を救うため「救命のリレー」が充実している
- (8)助かる命を救うため、救急業務の高度化の推進や、救急隊員への研修教育体制の充実が図られている
- (9)救急サービスの向上のため、救急需要対策や、適切な救急車の配置が進められている

将来像4

消防サービスが行き届くまち

- (10)誰もが安心して消防サービスを受けるため、消防需要に応じた消防署や車両等が整備されている
- (11)市民サービスの向上のため、ICT（情報通信技術）などを積極的に活用している
- (12)社会情勢の変化に柔軟に対応するため、消防の組織づくり、体制づくりが図られている

将来像5

あらゆる災害に備えるまち

- (13)地震等大規模災害に対応するため、広域応援体制の整備や、大学など他機関と連携している
- (14)災害の多様化に伴い、現場の安全性確保、及び効果的な消防戦術や部隊運用がなされている
- (15)減災に繋げるため、国内外の火災や災害事例などを分析・評価し現場活動に反映されている

【第二部 神戸消防アクションプラン 2015】

「神戸消防アクションプラン 2015」では、「神戸消防グランドデザイン 2025」で示した取組みの方向性を受け、5つの「安全で安心な神戸のまちの将来像」の着実な実現に向けた重点施策や具体的事業を体系的に設定しています。また、これまでの安全・安心への取組みを“神戸らしさ”にとらえ、新たに2つの“視点”をプラスし、新しい取組みにチャレンジしていきます。



New! 「“神戸らしさ”にプラスの視点」とは

神戸市では、阪神・淡路大震災以降、防災福祉コミュニティの結成などの震災の経験・教訓にもとづく取組みを進め、現在では“神戸らしさ”として、神戸の安全・安心への取組みとして定着しています。今後“神戸らしさ”にさらに磨きをかけるため、5つの「安全で安心な神戸のまちの将来像」の実現に向け取組む際には、新たに2つの視点を「プラス」することで、さらに神戸の安全・安心の質を高めるとともに、それらの取組みを国内外に発信していきます。

plus“こども”の視点で取組む内容

- 子ども達に命の大切さを伝え、生きる力を養い、また、将来の防災の担い手として育てるため、震災の教訓の伝承を始めとした防災教育を展開するなど、地域、学校、事業所とともに積極的に取組みを進めていきます。
- 子供は社会の“宝”であり、日頃から大人が社会全体の中で見守り育てていく必要があります。日常的な事故等の備えなど“子どもを守る”視点をもって、安全・安心の取組みを進めていきます。
取組み（例）：地域と学校の連携による防災教育支援、日常生活に係る事故防止の啓発

plus“おもてなし”の視点で取組む内容

- 震災で学んだ“支えあい”や“助けあい”の大切さといった教訓を、“防災でのおもてなし”（＝安全・安心ホスピタリティ）にとらえて市民に発信し、今一度原点に立ち返って地域の防災力の向上に取組むことで、これからの少子・超高齢化社会などにも対応していきます。
- 震災という逆境をバネに、復興の歩みを進めてきたこれまでの安全・安心への取組みをさらに推進し、神戸市の安全・安心を広く国内外などへ発信していくことで、防災でのおもてなしとしてまちの賑わいや活性化に繋がります。

「安全で安心な神戸のまちの将来像」実現に向けた重点施策と具体的事業

「神戸消防アクションプラン 2015」は、「安全で安心な神戸のまちの将来像」実現に向け、2つの『神戸らしさ』にプラスの視点』のほか、15の「重点施策」、各重点施策に2～3の「具体的事業」を設定しています。

1. みんなで安全・安心に取組むまち

代表指標：災害時要援護者支援訓練の実施回数【2010年度（計画策定時）…31回、2015年度…46回】

重点施策（1）「地域のゆるやかな連携」

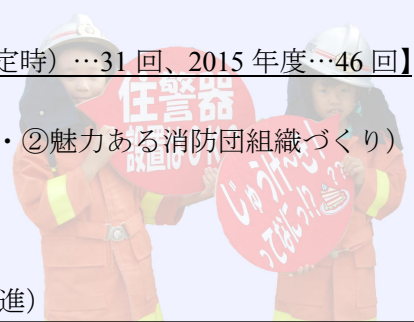
（①防災福祉コミュニティの活性化と地域組織間の連携強化・②魅力ある消防団組織づくり）

重点施策（2）「家庭での安全・安心」

（①住宅防火の推進・②家庭での日常的な事故等への備え）

重点施策（3）「事業所の自主防災体制の充実・強化」

（①防火対象物の安全確保・②事業所の自衛消防力の強化促進）



2. 防災への心を育むまち

代表指標：防災教育を実施した防災福祉コミュニティの割合【2009年度…73.8%、2015年度…78.5%】

重点施策（4）「防災教育の充実」

- ①市民防災教育の充実・②子ども達への防災教育支援・③震災を教訓とした防災福祉コミュニティ事業等の国内外への発信

重点施策（5）「防災情報の発信」

- ①広報の充実・強化・②防災に役立つ生活安全情報の提供

重点施策（6）「研修訓練の充実」

- ①消防職員、消防団員の教育・訓練の充実・②消防人材育成の推進



3. 命を大切に考え取組むまち

代表指標：救命率(目撃者のあるCPA)【2009年中…13.8%、2015年中…15%】

重点施策（7）「救命のリレー」

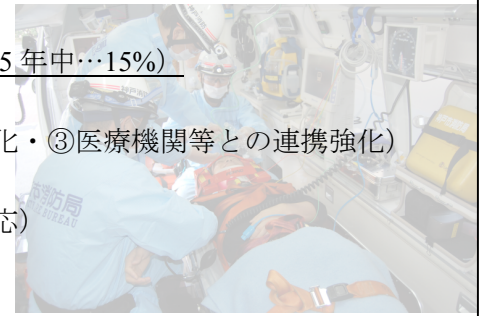
- ①市民救命士の養成・②「救命のリレー」の充実・強化・③医療機関等との連携強化

重点施策（8）「救急の更なる高度化」

- ①救急救命士の養成・②救急救命士の処置拡大への対応

重点施策（9）「適切な救急車の配置と救急需要対策」

- ①救急車の適切な配置・②救急車の適正利用の促進



4. 消防サービスが行き届くまち

代表指標：消防に対する満足度(アンケート)【2010年度…72.5%、2015年度…上昇】

重点施策（10）「消防署所・車両の整備」

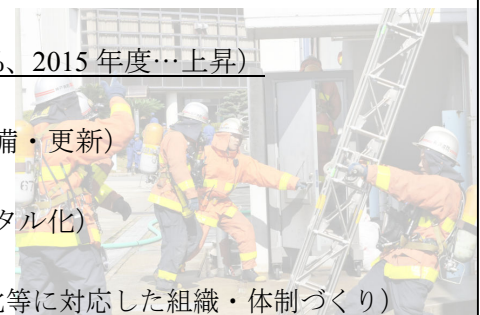
- ①消防署所の機能維持・整備・②車両・資機材等の整備・更新

重点施策（11）「ICTの活用」

- ①消防新管制システムの構築・②消防救急無線のデジタル化

重点施策（12）「組織・体制づくり」

- ①災害様態・②地域特性に応じた部隊の配置・③社会情勢の変化等に対応した組織・体制づくり



5. あらゆる災害に備えるまち

代表指標：他機関等と新たに連携した訓練・研修・協定等の回数

【計画策定時…現在の連携・協定、2015年度…+10】

重点施策（13）「大規模災害等への対応」

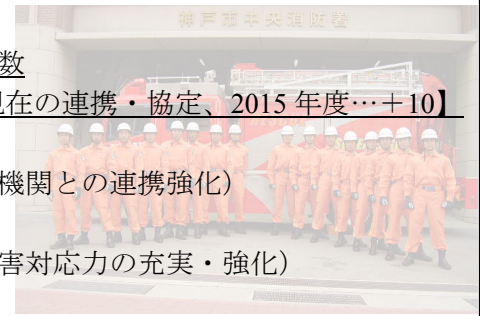
- ①消防防災への運航・②広域応援体制の強化・③他機関との連携強化

重点施策（14）「多様化する現場活動への対応」

- ①指揮・安全管理体制の充実・強化・②消防部隊の災害対応力の充実・強化

重点施策（15）「災害事例の分析評価と活用」

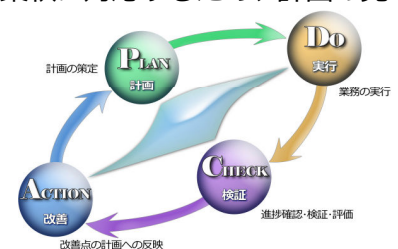
- ①火災・災害事例の収集・分析等・②火災調査結果の有効な活用



【計画の着実な実行に向けて】

「神戸市消防基本計画」では2025年までにさらなる急激な社会変化や、予期せぬ災害の発生など、計画を進めていく上で見直さなくてはならない事象が発生した場合に柔軟に対応するため、計画の見直しを行っていきます。

具体的には、毎年度重点施策・具体的事業等の進行管理、各「安全で安心な神戸のまちの将来像」の検証・評価を行い、新たな課題や消防ニーズを把握していくことにより、次年度以降の取組み、及び5年ごとの「神戸消防アクションプラン」の改定につなげていきます。

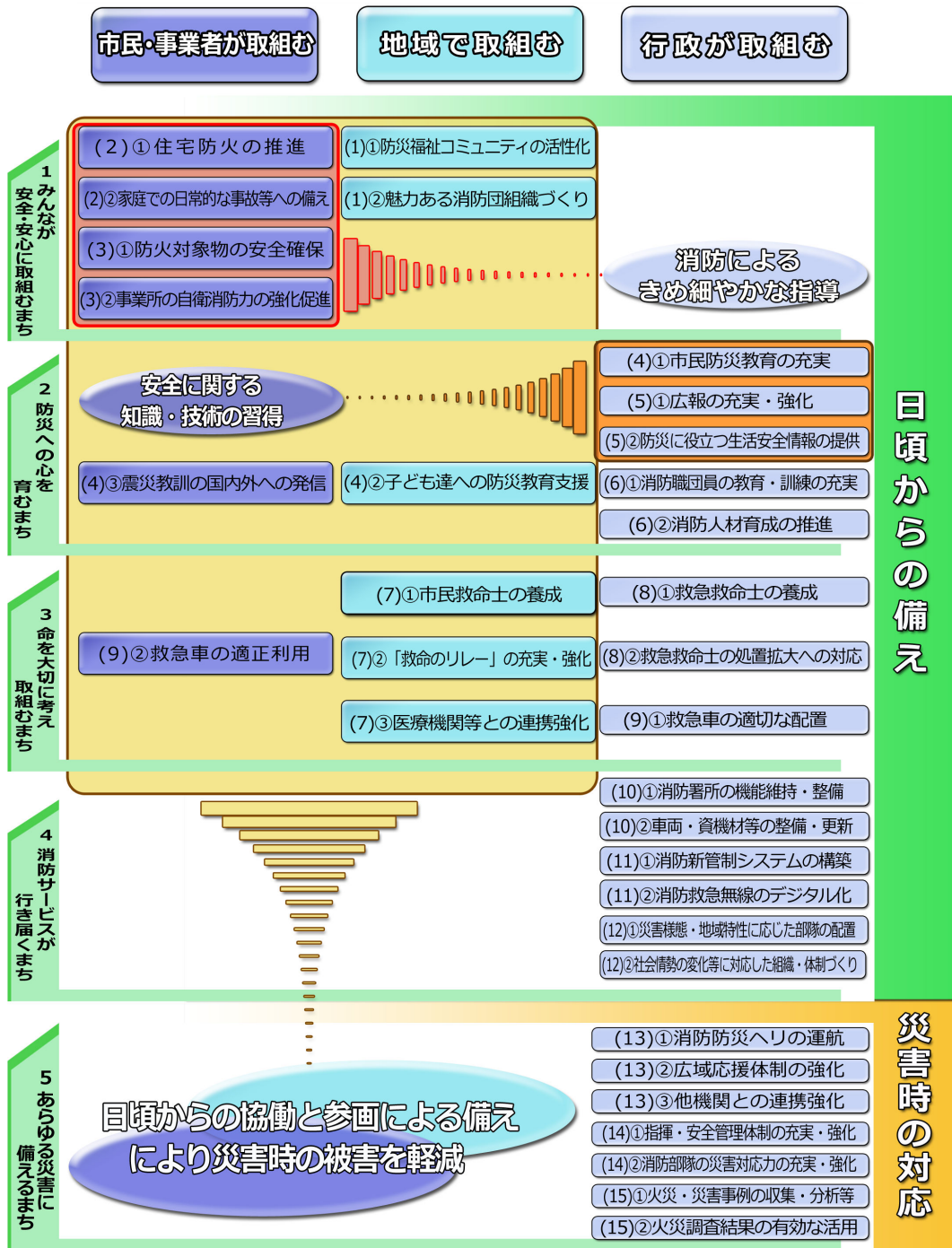


安全安心都市こうべの実現に向けた市民・事業者・行政の役割分担

重点施策ごとに設定した具体的事業について、市民・事業者・行政の役割分担を下記のように示しました。

市民・事業者及び地域は、日頃からの協働と参画により将来像 1～3 の実現に向けた具体的事業に取り組むことで、将来像 5 でのあらゆる災害に備えます。また行政は、将来像 1 実現へ向けた支援や指導、将来像 2～5 で設定した具体的事業を通じて市民の安全・安心を守る取組みを進めていきます。

市民・事業者・行政の役割分担



将来像を把握するための指標一覧

指標は、重点施策や具体的事業の進捗状況や効果を把握するため、将来像の現状を表す代表的な目標値として設けるものです。アクションプランでは、各重点施策ごとに指標を設定し、そのうちの1つをまちの将来像における代表指標としています。

2015年 安全で安心な神戸のまちの将来像ごとの指標及び目標値一覧

将来像1 みんなで安全・安心に取り組むまち

代表指標	災害時要援護者支援訓練の実施回数		2015年 目標値
(1)地域のゆるやかな連携	「災害時要援護者支援訓練の実施回数」	31回 <small>(計画策定時/平成22年度)</small>	↑ 46回
(2)家庭での安全・安心	「火災による住宅部分の焼損面積」	2,861㎡ <small>(平成21年中)</small>	↓ 2,400㎡
(3)事業所の自主防災体制の充実・強化	「事業所の火災件数」(1千事業所あたり)	3.9件 <small>(平成17～21年)</small>	↓ 3.4件

将来像2 防災への心を育むまち

代表指標	防災教育を実施した防災福祉コミュニティの割合		2015年 目標値
(4)防災教育の充実	「防災教育を実施した防災福祉コミュニティの割合」	73.8% <small>(平成21年度)</small>	↑ 78.5%
(5)防災情報の発信	「火遊びによる火災件数」	32件 <small>(平成21年中)</small>	↓ 18件
(6)研修・訓練の充実	「消防学校研修の習熟度」(アンケート)	81.2% <small>(平成22年度)</small>	↑ 向上

将来像3 命を大切に考え取り組むまち

代表指標	救命率 (目撃者のあるCPA)		2015年 目標値
(7)救命のリレー	「市民によるCPR実施率」	40.5% <small>(平成21年中)</small>	↑ 45%
(8)救急業務の更なる高度化	「救命率」(目撃者のあるCPA)	13.8% <small>(平成21年中)</small>	↑ 15%
(9)適切な救急車の配置と救急需要対策	「救急隊数」	31隊 <small>(計画策定時)</small>	↑ 32隊

将来像4 消防サービスが行き届くまち

代表指標	消防に対する満足度 (アンケート)		2015年 目標値
(10)消防署所・車両の整備	「全消防庁舎の耐震化率」	93.9% <small>(計画策定時)</small>	↑ 100%
(11)ICTの活用	「入電(119通報)から現場到着までの時間」	8.1分 <small>(平成21年中)</small>	↓ 短縮
(12)組織・体制づくり	「消防に対する満足度」(アンケート)	72.5% <small>(平成22年度)</small>	↑ 上昇

将来像5 あらゆる災害に備えるまち

代表指標	他機関等と新たに連携した訓練・研修・協定等の回数		2015年 目標値
(13)大規模災害への対応	「他機関等と新たに連携した訓練・研修・協定等の回数」	現在の連携・協定 <small>(計画策定時)</small>	↑ +10
(14)多様化する現場活動への対応	「延焼率」 (他の建物から出火し、別の建物へ燃え移った割合)	16.4% <small>(平成21年中)</small>	↓ 14%
(15)災害事例の分析評価と活用	「火災原因究明率」	91.8% <small>(平成21年中)</small>	↑ 95%